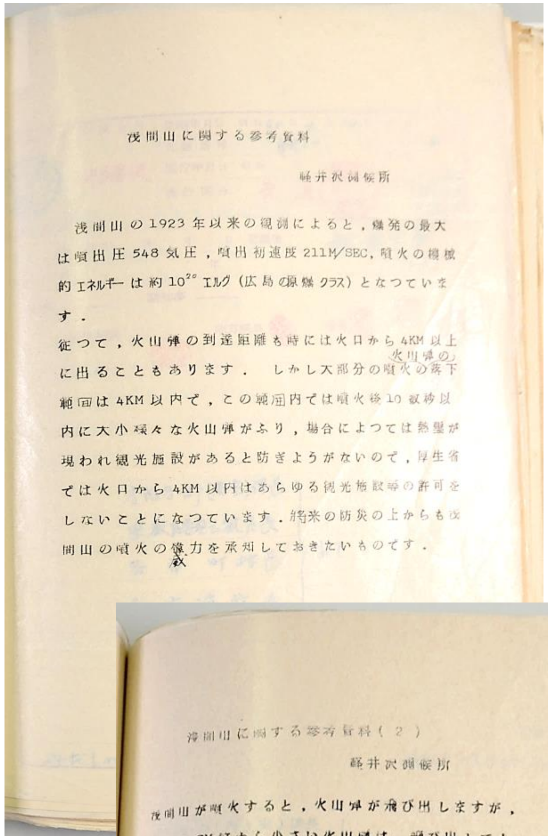

浅間山に関する参考資料

軽井沢測候所

浅間山の1923年以来の観測によると，爆発の最大は噴出圧548気圧，噴出初速度211M/SEC，噴火の機械的エネルギーは約10^{20}エルグ（広島の原爆クラス）となつています．
従つて，火山弾の到達距離も時には火口から4KM以上に出ることもあります． しかし大部分の（火山弾の）噴火の落下範囲は4KM以内で，この範囲内では噴火後10数秒以内に大小様々な火山弾がふり，場合によつては熱雲が現われ観光施設があると防ぎようがないので，厚生省では火口から4KM以内はあらゆる観光施設等の許可をしないことになつています．将来の防災の上からも浅間山の噴火の威力を承知しておきたいものです．

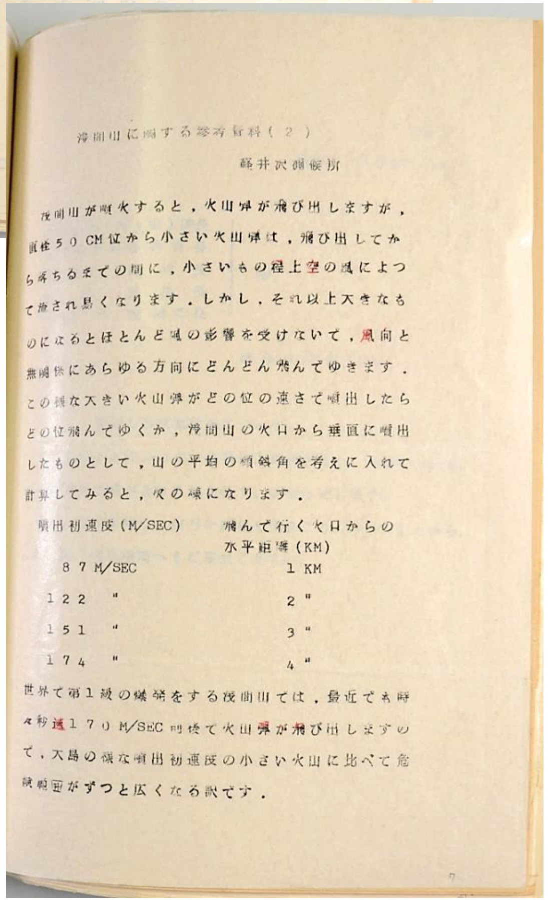
㉒浅間山の火山情報の送付

昭和４０年（１９６５）

従来、火山活動の異常を観測した場合に、軽井沢測候所の発表を火山情報として伝えられていたものを、毎月定期的に前月の観測状況を発表することになったことが書かれています。

活動状況については、概況、遠望観測、振動観測、現地観測その他の４項目について通知されており、その他に、浅間山に関する参考資料が添えられています。

群馬県行政文書「浅間山火山情報」
(A0181B00 160)

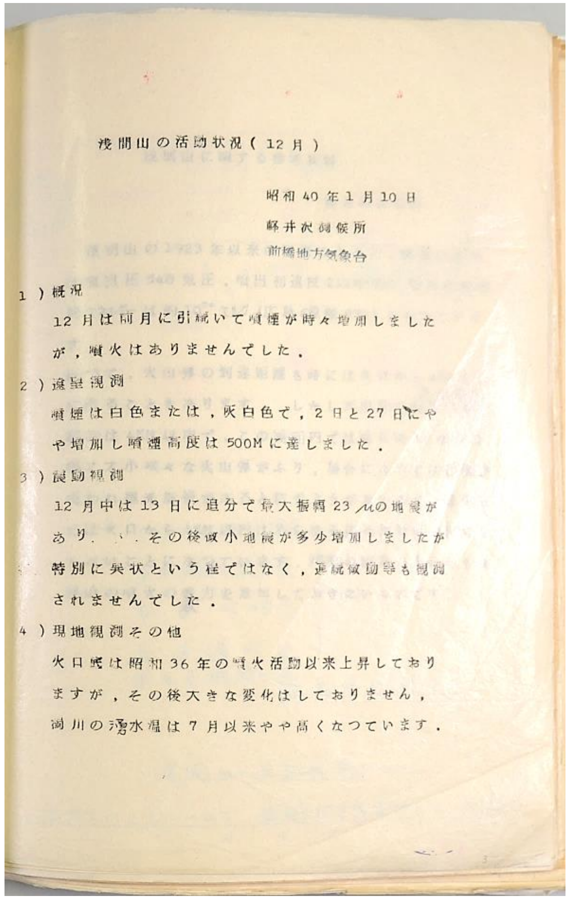

浅間山に関する参考資料（２）

軽井沢測候所

浅間山が噴火すると，火山弾が飛び出しますが，直径50CM位から小さい火山弾は，飛び出してから落ちるまでの間に，小さいもの程上空の風によつて流され易くなります．しかし，それ以上大きなものになるとほとんど風の影響を受けないで，風向と無関係にあらゆる方向にどんどん飛んでゆきます．この様な大きい火山弾がどの位の速さで噴出したらどの位飛んでゆくか，浅間山の火口から垂直に噴出したものとして，山の平均の傾斜角を考えに入れて計算してみると，次の様になります．

噴出初速度（M/SEC）	飛んで行く火口からの水平距離（KM）
87 M/SEC	1 KM
122 "	2 "
151 "	3 "
174 "	4 "

世界で第1級の爆発をする浅間山では，最近でも時々秒速170M/SEC前後で火山弾が飛び出しますので，大島の様な噴出初速度の小さい火山に比べて危険範囲がずつと広くなる訳です．


浅間山の活動状況（12月）

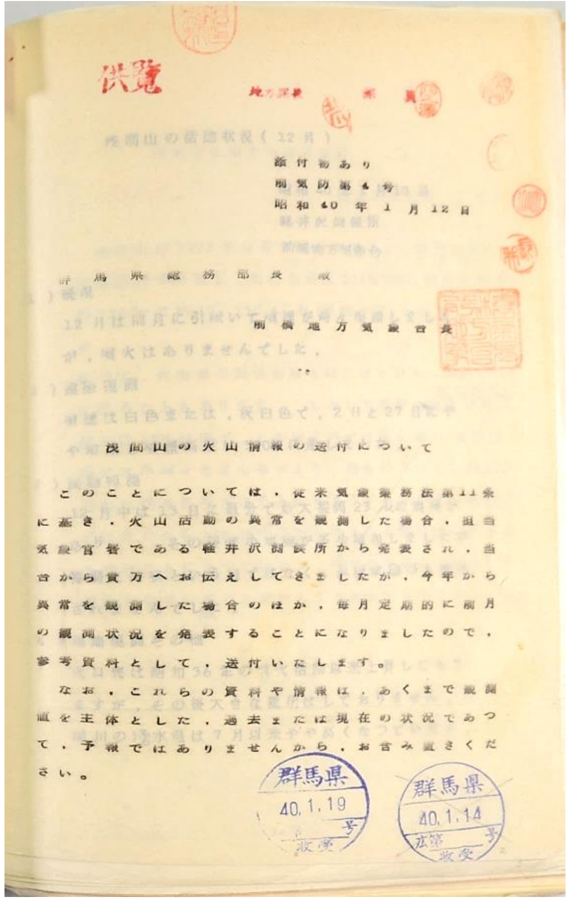
昭和40年1月10日
軽井沢測候所
前橋地方気象台

1）概況
12月は前月に引続いて噴煙が時々増加しましたが，噴火はありませんでした．

2）遠望観測
噴煙は白色または，灰白色で，2日と27日にやや増加し噴煙高度は500Mに達しました．

3）振動観測
12月中は13日に追分で最大振幅23μの地震があり，その後微小地震が多少増加しましたが特別に異状という程ではなく，連続微動等も観測されませんでした．

4）現地観測その他
火口底は昭和36年の噴火活動以来上昇しておりますが，その後大きな変化はしておりません，湧川の湧水温は7月以来やや高くなつています．


供覧

添付物あり
前気防第4号
昭和40年1月12日

群馬県総務部長 殿

前橋地方気象台長

浅間山の火山情報の送付について

このことについては，従来気象業務法第11条に基き，火山活動の異常を観測した場合，担当気象官署である軽井沢測候所から発表され，当台から貴方へお伝えしてきましたが，今年から異常を観測した場合のほか，毎月定期的に前月の観測状況を発表することになりましたので，参考資料として，送付いたします。

なお，これらの資料や情報は，あくまで観測値を主体とした，過去または現在の状況であつて，予報ではありませんから，お含み置きください。

群馬県 40.1.19 収受
群馬県 40.1.14 広第 号 収受